

Grab 式 浚 渫 船

Grab dredger



第 6 6 1 良 成 丸



第 3 6 1 良 成 丸

Hybrid 船
第 3 8 1 良 成 丸



船 名	船体主要寸法				バケット関連		製造年	造船所	船体固定方式
	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	喫水 (m)	容量 (m ³)	重量 (t)			
第 6 6 1 良 成 丸	70.00	26.00	5.00	2.70	56	120	H.1	大崎造船所	スパット方式
第 3 6 1 良 成 丸	60.00	21.00	3.60	2.00	36	70	S.62	大崎造船所	スパット方式
Hybrid船 第 3 8 1 良 成 丸	67.00	26.00	5.00	2.70	40	88	H.26	I H I マリン	スパット方式

アンカーレスグラブ式浚渫船の特長

安全な作業

航路及び港内泊地等の増深・増巾の浚渫作業は、近年益々航行がきびしく、安全対策上問題となっている。本船はこの問題点をアンカーワイヤーレスにて解消した。

特殊工事の施工

水路の浚渫で非常に巾が狭く両側とも土肩が高い場合、また流速が早くアンカーが引ける場合等、アンカーの使用が出来ないような浚渫箇所での施工が容易である。

作業効率の向上

停泊地及び入航船のピーク時でも、作業占用水域が極僅のため、作業が可能となる場合が多い。また退避及び作業開始時における揚投錨の作業が必要ないため、効率的に作業を行うことが出来る。

作業船舶の保全

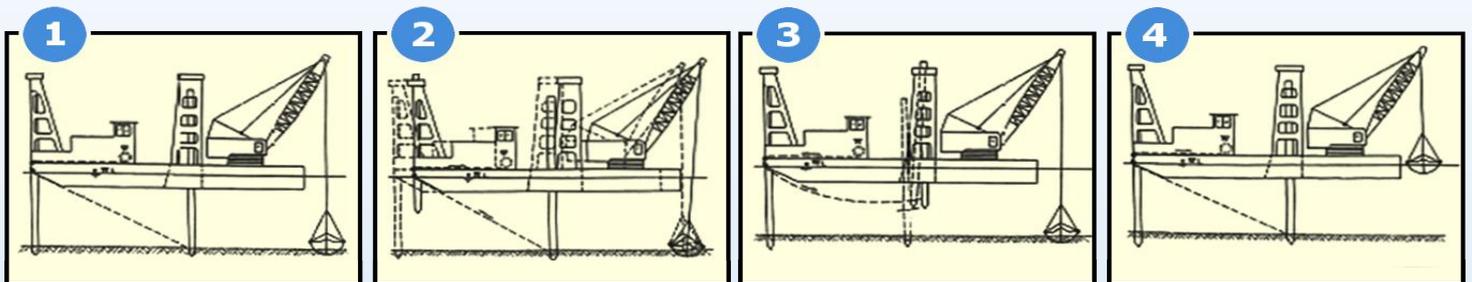
土運船の底部のアンカーワイヤーによる損傷、アンカーボート・曳船等のスクリュー破損、その他本船へ着船及び引出し作業時の船舶の損傷が無い。

楽な作業

揚投錨の作業が無いので、長い延長の浚渫、転船時のアンカー打ち替えの手間がかからない。浚渫船への着船、引き出し等の作業は、ワイヤーやチェーンが無いので楽に行える。

作業順序の説明

(注) 船体中央部のスパッドは「移動スパッド」、後部のスパッドは「固定スパッド」と呼びます。



作業を中止してグラブバケットを海底に仮置きする。

まず、固定スパッドを引揚げる。海底地盤より抜切れると、移動スパッド先端に取付けてある前進用ワイヤーロープ（移動スパッド先端をアンカーに代用している）を巻き取る事により本船は前進する。
(図表のように点線部分より前に移動する)

図2に示す適当な前進（堀幅・土厚等に見合った距離）をした位置で固定スパッドを打込む。次に移動スパッドを引揚げ海底地盤より抜切れると、スパッドは重力によりごく自然に図の示す矢印の通り先端が前に移動して垂直になる。
この時点において本船の位置修正の必要があれば、浚渫本機の旋回により修正する。

図3に示す作業が終了すると、移動スパッドを打込み浚渫作業に入る。（図1～4までの所要時間は2～3分程度）